

地区安全特集：中国・ミャンマー関係が急速に冷却

漢和防務評論 20150602 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ミャンマー北部と中国雲南省が接する国境付近で発生する紛争が激化するに従って中国・ミャンマー関係が冷却化しています。
ミャンマー政府は、中国が傭兵を使って戦わせていると考えています。その背景を述べた記事を紹介します。

KDR バンコク特電：

今年 2 月、ミャンマーのシャン州少数民族武装組織とコーカン（ミャンマーの漢族）の連合軍は、政府軍と激戦となった。激戦期間、ミャンマー外交部スポークスマンは、「中国は積極的にコーカン人に影響力を発揮してほしい」と述べた。中国・ミャンマー関係の冷却化は表面化した。ミャンマー政府は、實際上 2009 年以来、中国のコーカン問題処理姿勢に相当不満であった。東南アジアのミャンマー外交消息筋は、「2009 年のコーカン軍対政府軍の衝突において、コーカン軍は一旦敗れた後、中国国内に迅速に撤退した。中国は表面上、武装解除し難民として処理したが、事後、釈放しこれら軍人は再度ミャンマー国内に潜入した。内戦中、コーカン軍人は軽武器から重武器に至るまで全て中国製武器で武装されており、ミャンマー当局を驚かせた。2012 年、ミャンマーの少数民族武装組織 Wa 連合軍は閲兵式で中国寶雛専用汽車有限公司製の 4×4 装輪装甲車を展示した。これらの車両は中国雲南省の商務庁が民用車両として輸出を許可したものである。総数 14 両以上あり、機関銃を装備している。ミャンマー軍は、コーカン地区に中国の傭兵が出現したことを公式に非難した。いわゆるコーカン人（ミャンマーの漢人）は、当時いわゆる”ミャンマー共産党解放区”で誕生した。多数の軍人は、当時の四川省知識青年達であった。

今年のミャンマー内戦で中国政府の選択肢は多くない。政治的地縁関係が変化しつつあり、中国はミャンマーとの関係を公式に悪化させることはできない。したがって今年の中国の基本対策は、2009 年と比べて差はない。外交レベルでは、継続して双方が平和的に問題を解決するよう促すと同時に、難民の管理問題ではコーカン人の实际的利益に配慮することである。経済上では、中国はミャンマー各方面の機嫌を損ねることはできない。50 億ドルかけて 2014 年に完成したばかりの中国・ミャンマー間天然ガスパイプラインは、長さが 700 km あり、このパイプラインの安全確保は北京の最重要事項である。

しかし双方の軍事協力領域では冷却期に入るのは避けられない。2015 年の内戦では、政府軍は、Mi-35 及び MIG-29 を含め、全てロシア製兵器を用いた。2013 年以降、ミャンマーは、武器の輸入先を軍事政権時代のように中国一国のみに依存す

る体制を変更し、北朝鮮、インドネシアからも大量の武器装備を購入している。現在、ミャンマー軍は、比較的多くの中国製武器を使用している。その中には、CH-3 無人機、KS-1A 地対空ミサイル、MBT-2000 主戦タンク、105 MM 自走火砲、空軍の Q-5 攻撃機、J-7 戦闘機が含まれ、これらの武器は以前に購入したものだ。2014 年以降、中国・ミャンマー間の武器貿易は基本的に停滞している。ミャンマーは、武器の国産化を強調し始めた。今後は、ロシアとの軍事協力が強化される可能性がある。

以上